4

極秘

昭和十一年九月四日

治廢第一次條約實施概況竝滿洲國側準備狀況

九月四日新京關東局會議室ニ於テ現地委員竝幹事
ヨリ青木次長ニ對シ說明報告セラレタル要旨ナリ

對滿事務局

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0585

目次

		頁
一、滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國課税等ニ關スル條約實施概況	大使館 山本書記官	一
一、滿鐵附屬地ニ於ケル條約實施狀況	關東局 三浦行政課長	一三
一、對日本人課税ニ關スル說明	財政部 靑木税務司長	一七
一、地方税ニ就テ	民政部 楠田財務科長	二〇
一、日本人ニ對スル產業法規ノ適用ニ關スル說明	實業部 山本文書科長	二三
一、領事裁判權撤廢準備狀況	司法部 菅原民事第一科長	二八
一、交通部郵政關係準備狀況報告要旨	交通部 岡本郵務科長	三五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0586

滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國課税等ニ關スル條約實施概況

大使館　山本書記官

一、六月十日調印ノ滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課税等ニ關スル條約ハ七月一日ヨリ實施セラレタルカ右實施ト同時ニ本條約ノ細目ニ關スル全權大使、外交部大臣間ノ協定公布セラルルト共ニ第三國人取扱ニ關スル外交部大臣聲明ノ發表セラレタルコト既ニ御承知ノ通ナリ

一、本條約ハ法權ノ一部撤廢乃至附屬地行政權ノ調整ト謂フカ如キ極メテ複雜ナル事態ヲ處理スルモノナル處一方滿洲國ノ對內外關係ニ鑑ミ此ノ重大問題ヲ成ル可ク早目ニ解決スル必要アリシ事情モアリ旁々漸進主義ナル所謂從前類例ヲ見サル方法ニ依リタル爲其ノ實施ニ付テハ豫想セサル幾多ノ複雜且困難ナル問題ニ逢着シタルニモ不拘今日迄ノ實績ニ徵スルニ極メテ圓滑ニ實施シ得タルコトハ當國ノ爲

慶賀スヘキコトナリ

一、本條約ノ實施振如何ハ來ルヘキ第二次條約ニ直接影響アルハ勿論法權撤廢ノ如キ大國策遂行ノ結果日本人ノ滿洲國ニ於ケル發展ヲ助長シ日滿間融合不可分ノ關係ヲ何ノ程度迄如實ニ實現シ得ルヤノ試金石トモナルヘキ次第ナリシヲ以テ是レカ實施ニ付テハ日滿兩機關トモ全力ヲ擧ケテ其ノ趣旨ノ徹底、實施ノ圓滑ヲ圖ルコトトシ滿洲國側ニ於テハ各省總務廳長會議稅務監督署長會議其他凡有ユル關係機關ノ會合ヲ催スアリ一方日本側ニ於テモ夫々大使館關東軍及關東局ニ於テ關係機關ノ會議ヲ開催スルハ勿論屢々人ヲ地方ニ派シテ趣旨ノ徹底實施ノ援助ニ當ラシメ斯クノ如クニシテ日滿兩國一體協力ヲ以テ萬遺算無キヲ期シタリ

一、今次條約中最モ重大ナル關係ヲ有スルモノハ課税權ノ實施振如何ナリ即チ附屬地內外ヲ通シ內地人四十萬、鮮人約百萬ノ日本人カ最モ關心ヲ有シタルハ課税權ノ問題ナリシカ其ノ實施ノ今日迄ニ至ル經過ハ極メテ順當ニ進捗シ居レリ

先ツ消費税關係ニ付テ之レヲ見ルニ從來大部分ハ默認シ居リタルモノナルヲ以テ新タニ特別ノ問題ヲ惹起スルカ如キ形勢ハ無シ英米煙草ノ如キモ最近滿洲國法人ニ改組シ進ンテ課税ニ服スルノ態度ニ出テツツアリ

唯高粱酒、精酒、「セメント」等ニ關スル税率カ高キニ失ストノ理由ノ下ニ最近陳情シ來ル向アル處是等關東局及滿洲國側ニ於テモ充分好意的ニ考慮スヘシトノコトナルヲ以テ圓滿ニ解決スヘキモノト思考ス

營業税中法人營業税ハ純益税ナルヲ以テ問題無シ個人營業税ニ付テハ當初ヨリ其ノ二、三ノモノニ付税率高キニ失スルトノ批難ノアリ

シコト御承知ノ通ナルモ最近ハ早晩改正サルルモノト思考シ比較的運動カマシキコトハ無キモ來ルヘキ改正ニ於テハ相當考慮ノ要アリト認メラルル唯條約ニ規定スル諮問委員會ニ付テハ最近日滿間協議ノ結果大體營業税精通者カ同業組合及諮問委員ヲ指定シ之レニ必要ノ事項ヲ諮問シ公平妥當ヲ圖ルコトニ決定既ニ地方ニ於テハ關係者ノ指定ヲ了シタル場所モアリ是等ハ營業者ニ對シテ一般ニ極メテ好感ヲ以テ迎ヘラレツツアリ何レニスルモ營業税ノ申告及調査ヲ九、十月中ニ之ヲ了シ十一月ノ初メニハ決定ヲ爲シ本年末乃至來年初メニ於テ實際ノ徴税ヲ爲スコトトナリ居ルヲ以テ今日ノ場合確タルコトハ明言シ兼ヌルモ大體ニ於テ順當ニ運ヒ居ルモノト信シ居レリ

地方税ニ就テハ之レ亦從前許可シ居リタルモノモ尠カラス、叉最近遊興税等ノ設置セラレタル省モ二、三アルカ紛議等ノコト無ク圓滑ニ實施ノ狀況ニ在リ

尚條約ニ定ムル日系官吏ヲシテ徴税事務ニ當ラシムルノ件ニ付テハ最近吉林省其他二、三ノ地方ニ於テ税捐局ニ日人官吏ノ配置ナキ爲種々不便ヲ感スル旨ノ申出アリタルモ滿洲國側ト接衝ノ結果配置ヲ充分ニスルコトトナリ此ノ點モ亦心配無キ狀態ナリ

一、關東局ノ徴税ニ付テハ後刻仝局ヨリ御説明アルコトト思考スルニ付六月末ニカノ消費稅配分ニ付滿洲國側ト關東局トノ間ニ協定カ成立シ今日ハ亟メテ圓滑ニ實施セラレ居レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0591

一、産業等ニ關スル法規ノ適用ニ付テハ從來既ニ事實上默認シ居ルモノ多キト其ノ他工業所有權ニ關スルモノノ如ク主トシテ人民ノ權利擁護ニ重キヲ置ク事情等ニ依リ何等紛議ノ問題モ無ク實施セラレ居レリ

右ノ中銀行法、金融合作社法等金融關係法規ノ適用ニ付テハ現在附屬地外ニ於テモ銀行トシテ滿洲國外ニ本店ヲ有スルモノ、支店等カ二四、附屬地外ニ本店ヲ有スルモノ七、附屬地内ニ本店ヲ有スルモノ一、金融組合四、無盡會社五、銀行類似業務ヲ營ムモノ三五ニ及ヒ直チニ關係法令ノ適用ヲ受ケルニ於テハ其ノ影響モ尠カラサル狀態ナリシカ滿側ニ於テハ過渡的勅令ヲ公布シ唯屆出ニ依リ從來通リ業務ヲ繼續シ得ル樣措置シタル爲極メテ圓滿ニ實施サレ居ルカ一方日本側ニテモ漸次統制整理シテ成ル可ク速カニ滿洲國ノ完全ナル統制ノ下ニ措置シ度キ意向ヲ以テ準備ヲ進メツツアリ

金融合作社法ト最モ關係アルハ朝鮮人金融機關タル金融會ナルカ是レ亦過渡的ニ勅令ノ公布ニ依リ少時現狀ノ儘トスルコトトシ漸次日本側ニ於テ整理ノ上完全ニ滿側ノ統制ニ服セシムルノ方針決定シ現ニ金融會ハ金融工作社內ニ事務所ヲ有シ彼我密接ノ連絡ヲ保チツツアリ中央卸賣市場法ノ適用ニ付哈爾賓及吉林ノ兩市ニ於テ從來日本人トシテ類似ノ行爲ヲ爲シタルモノアリ之レカ急激閉鎖ヲ命セラレタル爲種々陳情ノ次第アリタルカ右ハ市場法ニ違反スルモノナリトノ決定方針ニ基キ處理スルモ出來ル丈ケ好意的ノ方法ニ依リ解決スル樣日滿當局間ニ話合纏リ居ルヲ以テ不日解決ニ至ルヘシト存ス

一、內地開放問題ニ付キ問題トナレルハ土地所有權ノ獲得及現有商租權ヲ所有權其他類似ノ權利ニ變更スルコトナルモ滿洲國側ハ七月一日ヨリ日本人ニ對シ土地所有權ヲ認メ居リ既ニ二、三ノ實例モアリ次ニ商租權ノ變更ニ付テハ現ニ滿洲國側ニテハ商租權整理法ヲ立案審議中ニテ同法ハ本月中頃ニハ公布ノ運ヒトナルヘキ見込ナリ同法施

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

行ノ上ハ日本人ノ有スル商租權ハ所定ノ手續ニ依リ申告ヲ了シ審査ノ上所有權其他ノ權利ニ變更サルル次第ナルカ全部ヲ終了スル迄ニハ二、三年ヲ要スヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、條約上司法手續ナルモノハ日本側ニ留保スルコトトナリ居ル關係上其ノ實施ニ付極メテ複雜ナル問題アリ例ヘハ犯人ノ引渡或ハ登記問題等極メテ理論的ニハ解決困難ナル幾多ノ事件發生シタルモ之レ亦日滿兩當局ニ於テ協議ノ上圓滑ニ實施シ居レリ

一、附屬地外ニ於ケル産業法規ノ適用ニ關聯スル警察事項ノ取扱ニ付テ滿洲國側中央官廳ヨリ地方官廳ニ對シ法規ニ拘泥スルコト無ク充分愼重ノ態度ヲ以テ善處スル樣訓令スル所アリ今日迄ノトコロ何等問題アリシヲ聞カス

一、次ニ條約ニ關係アル次第ニ非ラサルモ實際問題トシテ處理シタルハ民會ノ事務引繼問題ナリ現在滿洲ニ於テハ日本人民會七五、朝鮮人民會二〇四ノ多數ニ及ヒ就中日本人民會ノ如キハ從來教育、戶籍、消防、衛生、社交、公會堂ノ經營等多數ニ亘ル事業ヲ營ミ居リ之レカ經費ハ專ラ民會課金ノ徵收及政府ノ補助ニ依リタルカ課税權ノ實施ニ伴ヒ課金ノ繼續ハ滿側徵税ニ支障ヲ生スルノミナラス彼等自身

ニトツテモ負擔ノ過重トナリ各方面ニ及ホス影響尠カラサルモノアルニ鑑ミ滿側當局ト協議ノ結果爾今課金ヲ全廢スルコト衞生消防等ノ行政的施設ハ之レヲ滿側縣市等ニ引繼クコト、

關係職員モ先方ニ於テ引繼クコト、殘務整理費ノ補助ヲ爲スコト等ヲ決定シ爾來一ケ月ノ間晝夜兼行努力シ殊ニ滿側ノ絕大ナル好意的措置ニ依リ今日迄殆ント全部ノ民會事務引繼ヲ了シタルハ誠ニ喜ハシキ現象トシテ特記スヘキモノト思考ス日本人民會從事員二〇六名中約百名、鮮人民會從事員約三九五名ノ引繼ヲ了シタリ

右ノ外今後滿洲國內ニ本店ヲ有スル會社ノ設立ニ付テハ實際滿洲國法人トスル樣指導シツツアリ現在滿洲國內ニ本店ヲ有スルモノ一一九六、國外ニ本店、ヲ有シ國內ニ支店ヲ有スルモノ一五三ノ多キニ及ヘリ

一、目下在留外國人數約四二、〇〇〇其內舊治外法權國人約一千二、三百人ヲ算スル處去ル七月一日外交部大臣ノ聲明ニ依リ是等外人ノ日本人全樣日本側ノ課稅及産業法規ノ適用ヲ受ケツツアルカ既述ノ如ク英米煙草會社カ率先滿洲國法人ニ改組シ進ンテ多額ノ納稅ニ應シツツアル狀況ニテ當初心配トナリタル外人關係モ今ノ所極メテ順當ニテ何等紛糾ヲ來シ居ラス

一、最後ニ條約實施後今日迄新タニ日本人ニ適用スルコトヲ承認シタル滿洲國法令左ノ如シ

七月二十五日　哈爾賓市ニ於ケル電燈、電熱稅

七月一日　葉煙草稅法、貿易緊急統制法

九月五日　無盡業法

一、要スルニ今次ノ條約ハ日本國民ニトリ最モ關心ヲ有シタル課稅問題ヲ包含シタルモノナリシニモ不拘今日迄ノ實績ハ豫想以上ノ好結果ヲ收メ極メテ順當ニ實施セラレ居レリ右ノ事情等ニ思ヒ合セ來ルヘ

0000 0597
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

キ第二次條約モ滿洲國ノ準備整ヒ次第一日モ速カニ之レヲ實施スル
モ何等心配スヘキ事態ニ逢着セサルヘキハ豫想ニ難カラス

滿鐵附屬地ニ於ケル條約實施狀況

關東局　三浦行政課長

私ハ第一次條約實施後ノ滿鐵附屬地內ノ狀況ヲ御報告申上ケマス只今山本書記官ヨリ詳細ナル說明アリマシテ其內容及結論ニ於テ大體私ト同樣テアリ又特ニ申上ケル程ノ事項モアリマセン從ツテ一通リノ說明ヲスル事ト致シマス

第一次條約ノ附屬地內テ實施セラレタノハ關東局ノ附屬地課稅及營業法規ノ一部分テアリマス先ツ課稅ニ就テハ徵稅機關トシテ四稅務署（新京、奉天、安東、營口）及六稅務出張所（四平街、開原、遼陽、撫順、瓦房店、鷄冠山）ヲ設置シ署長以下職員ヲ配置シテ鋭意課稅準備ニ全力ヲ注キツツアリマス何分ニモ最初ノ決定ハ將來ノ基準トモナリ又人心ニ及ホス影響モ至大テアリマスノテ最モ愼重ヲ要スルノテアリマス尙從來公費區負擔ヲ課セラレタ其上ニ新規ニ國稅ヲ負擔スルノテアリマスカラ相當負擔增トナル關係モアリ特ニ負擔ノ公正ト負擔ノ急

激ナル増加ニナラナイ様ニ諸調査殊ニ權衡調査竝基準調査ヲ徹底的ニ行ヒ以テ萬全ノ注意ヲ拂ヒツツアル次第テアリマス

課税中最モ重要ナルハ營業税テアリマス營業税ハ個人營業税ト法人營業税トテアルカ個人營業税ハ目下課税標準決定ノ爲ノ調査中ニテ十一月十日正式ニ決定スルノテアリマス其前ニ營業税調査委員會ニ諸問スルコトニナツテ居リマス而シテ納期ハ本年十二月ト來年二月トテアリマス、法人營業税ハ七月以降終了スル事業年度分ニ對シテ課スルノテアリマスカ未タ徴收スル迄ニハ至ツテ居リマセヌ

以上ノ通リニテ未タ徴收ノ域ニ逹シテ居ラナイ爲ニ民心ノ動向ヲ適確ニ豫測スルコト困難ナルモ實施後ハ實施前ノ如キ陳情運動等全然無キ狀態其他ヨリ推察スルニ先ツ問題無キモノト信シマス

次ニ消費税ハ七月一日ヨリ課税ヲ實施シテ居リマス

酒ニ付テハ税令施行當時現在スル品ニハ課税シナイノテアリマシテ課税方法トシテハ査定課税テ製造ノ都度査定シ決定スルコトニシテ居リ

マス其内清酒、支那酒ハ十二分ノ一宛徴收シ他ハ翌月納付ノコトニナツテ居リマス。煙草、麥粉、「セメント」ハ搬出課税テアリマシテ搬出スル際ノ現在品ニカケルノテアリマス。七月中ノ收入額ヲ擧ケマスト煙草四〇九四〇圓、「セメント」一一一六五圓、麥粉三七一〇〇圓合計八九二〇五圓テアリマス

消費税ニ付テハ次ノ様ナ陳情カアリマシタ先ツ日本清酒ハ日本人ノ獨擅スルモノテアルカラ營業税ト同シク漸增主義ヲ採ツテ貰ヒタイ、又庫出税トシテ賣却ノ際課シテ貰ヒタイ、納期モ後納主義ヲ採ツテ貰ヒタイ等ノ希望テアリマス。燒鍋業者モ原料等ニテ利益尠ク從來ハ二分ノ一乃至三分ノ一ノ減税ナリシモノヲ全額トナリ且又税率カ二倍以上トナレル關係上原始的製法ニ從事シテ來タ同業者ハ非常ニ打撃ヲ受ケツツアリトノ事テアリマス。當局トシテ今直チニ規定ノ改正ハ困難ナルモ實情ヲヨク調査スル方針テアリマス

以上ノ陳情ノ一二アリマシタ他ハ極メテ順調テアリマシテ別ニ之レト

云フ問題ハアリマセヌ。又日滿兩當局間モ連絡ヲ密ニシマシテ日滿稅務機關ノ協議會ヲ開催スル他各地ニ座談會ヲ開キ殊ニ消費稅ノ賦課徴收ニ關シテハ當局總長ト滿洲國財政部大臣トノ間ニ協定ヲ締結シテ課稅技術ノ簡易化ヲ計リツツアル次第テアリマス

次ニ產業法規中附屬地ニ適用セラレタノハ鑛業法、工業所有權ニ關スル法令及九月一日ヨリ施行セラレタル貿易緊急統制法テアリマス

鑛業法ノ適用ヲ受ケルノハ撫順、煙臺ノ炭坑テアリマスカ何レモ條約ニ依リ除外サレテ居リマス。工業所有權ニ關スル法令中商標法ノ如キハ從前ヨリ默認セラレ來ツタモノテアリマスシ他ノ法令モ總テ人民ノ利益ヲ保護スルモノテアリマスカラ實施ニ依ツテ何等支障ハアリマセヌ。貿易緊急統制法ニ付テハ固ヨリ何ノ問題モアリマセヌ、民間テハ色々會合ハアリマシタケレトモ特ニ希望又ハ意見等ノ申出ヲ聞カナイノテアリマス

以上槪略御報告申上ケタ次第テアリマス

對日本人課稅ニ關スル說明

財政部 靑木稅務司長

一 新規課稅

本年七月一日以降新タニ日本人ニ對シ課稅法規ノ適用ヲ見タルモノハ實質的ニハ個人營業稅及法人營業稅並九月一日ヨリ實施セラレタル菸稅トス

二 實施狀況

(一) 從來課稅ヲ默認セラレ居タル地稅、契稅、統稅、捲菸稅其他ニ付テハ課稅實施アリタルハ勿論ナルモ新ニ適用セラルル個人及法人營業稅ニ付キ前者ニ付テハ目下課稅調査中ニシテ十一月ニ於テ賦課額決定ヲ見ルモノニシテ又後者ニ付テハ事業年度ノ關係上來年一月以降賦課徵收ヲ見ルモノトス

(二) 個人營業稅ニ付テハ日本人營業者七一五〇人朝鮮人四一二〇人合計一一、二七〇人ナルカ日本人ノ右營業者數ハ最低課稅標準額ヨ

リ見テ大多數課税ノ適用アリト見得ルモ朝鮮人ニ付テハ右人員ヨリ減少スル見込ナリ

(三) 法人營業税ニ於テハ日本法人四五五ナリ

(四) 個人營業税ニ付テハ其調査從事員ハ全部日系官吏ヲ以テ之ニ充ツル程度ノ配置ヲ終了シ法人營業税ニ付テモ特ニ此點ニ留意シ改善ヲ圖リツツアリ

(五) 第三國人ニ對スル課税見込人員ハ目下ノ處個人ニ付二一七人法人ニ付四一ノ見込ナリ

三 課税ニ關スル日滿兩國間ノ共助及調整

課税ニ關シ日滿兩國ノ共助及調整ノ處置ニ關シテ課税ノ進行ト共ニ具體化ヲ必要トスルニ至ルヘシ、卽チ調査方法、資料連絡、徵收事務ノ連絡等差當リ關東局トノ間ニ共助ヲ必要トスルノミナラス日本內地機關トノ共助關係ノ確立ヲ必要トス又例ヘハ日本ノ法人所得税ト滿洲國ノ法人營業税トノ關聯ニ於テ相互調節ノ問題ヲ將來必要トス

ルニ至ルヘシ即チ消極的ニハ二重課税ノ防止積極的ニハ税源ノ分配ノ問題トス本問題ハ運用ニヨリ爲シ得ル部分ト法制ヲ必要トスル部分トアルモ之等ノ問題處理ノ爲一定ノ共同處理機關ノ設置ヲ希望ス

四　税制ノ整理改善

現在日本人ニ適用セラレサル税制ノ改廢ニ付テハ牲畜税及印花税ニ付キ研究中ナリ

地方税ニ就テ

民政部　循田財務科長

地方税ニ就テ簡單ニ申上ケマス御承知ノ如ク地方税ニ付キマシテハ昨年八月地方税法並附屬法令ヲ公布シマシテ第一次ノ全面的整理ヲ行ヒ本年一月ヨリ全國ニ實施致シマシタカ此ノ整理ニ當リマシテハ日本人課税ノ問題ヲ考慮シマシタノミナラス將來附屬地ニ對スル實施ノ際ニ於ケル現行課金トノ關係ヲモ考慮シマシタノテ今般ノ課税實施ニ際シ全般的ニ何等ノ支障モ見テ居リマセンコトハ先程山本書記官ヨリ御説明ノアツタ通リテアリマス之ヲ内容別ニ申上ケマスレハ國税附加税ノ外特ニ申上クヘキハ戸別捐、房捐テアリマシテ雜捐即チ雜種税ハ種目ヲ限定シ且概ネ内地其他ニ於テ慣レテ居ル種目テアル關係上實施ニ於テ何等ノ問題モ起ツテ居リマセヌシ七月後特ニ認メラレマシタ哈爾賓特別市ノ電燈、電熱消費捐ノ如キモ料金ノ引下ニ伴ヒ其範圍内ニ於テ設ケタモノニ過マセヌノテ實質的ニハ新シイ課税テナク之又問題ニハ

ナリマセン、戸別捐房捐即チ内地ノ戸數割家屋稅ハ目下各地ニ於テ課
稅ノ調査ニ當ツテ居リマスカ此ノ兩稅ハ一部ノ地方ヲ除キ滿人ニトリ
マシテモ新シイ稅目テアリマシテ從テ課率モ概シテ低イノテアリマス
而モ此ノ兩稅ニ付テ營業稅ニ準スル輕減稅率ヲ適用シマシタ結果從來
ノ民會課金ヨリ輕減セラルル地方スラ相當アルノテアリマシテ實施ニ
當リマシテハ何等ノ御懸念モ要シナイト存シマス殊ニ日本側ヨリ外交
官、領事官及常駐ノ形ニアル軍人モ戸別捐ノ負擔ニ應スル御申出モア
リ課稅事務當局ハ其好意ニ對シテモ最モ愼重ナル態度ヲ採ツテ居リマ
スシ調査竝徵稅ニ當ルヘキ日人職員モ先程山本書記官ヨリ詳シク御話
ノアリマシタ如ク民會職員中課金徵收ニ當ツテ居リマシタモノハ全部
引續クコトニ致シマシテ其數モ豫定ヲ超過シ百名ヲ超ユルノ狀況テア
リマシテ手不足ハ全クナク更ニ民意ノ尊重ニ付キマシテモ居留民會ノ
アリマシタ所テ諮問機關ノ設ケナキ地方ニハ民會ト充分ナル聯携ヲ保
チツツ諮問員ヲ設クルノ運トナツテ居ルノテアリマス

簡單テアリマスカ以上ノ樣ナ實情テアリマシテ地方税ノ課税ハ最モ圓滑ニ何等ノ支障ナク實施サレテ居ルトイフコトヲ申上クルコトカ出來ルノテアリマス

尙將來ニ於ケル税制ノ改正ニ付キマシテハ內特ニ説明ヲ要スヘキ地税ニ關シテハ財政部ノ方カラ話サレマシタノテ別ニ申上ケマセン而シテ右地税ハ勿論其他ノモノモ國地兩税ノ間ニ充分ナル聯關ヲ以テ絶エス其整備改善ニ付考究ヲ續ケテ居リマスコトハ充分御諒承置キ願ヒタイト存シマス

日本人ニ對スル產業法規ノ適用ニ關スル說明

實業部　山本文書科長

日本人ニ對スル產業法規ノ適用ニ付テハ問題トナルヘキモノ殆トナキヲ以テ極メテ簡單ニ申述ルコトトス

先般締結セラレタル「滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間ノ條約」ニ依リ七月一日ヨリ日本人ニ適用スルコトトナリタル實業部關係ノ產業法規ハ

一、商標法
二、特許發明法
三、意匠法
四、度量衡法
五、計量法
六、鑛業法
七、中央卸賣市場法

八、家畜市場法
九、林場權整理法
及之等諸法ノ附屬法令ナリ而シテ九月一日ヨリ貿易緊急統制法カ日本人ニ適用サルルコトトナレリ

之等ノ産業法規ハ正式ニハ本年七月一日ヨリ日本人ニ對シテ適用サルルコトトナリタルカ從來ト雖日本人ハ之等諸法規ニ準據シ來レルナリ

卽チ商標法、特許發明法、意匠法ニ基キ商標、發明、意匠ノ保護ヲ出願シ工業所有權ヲ付與サレ、度量衡法、計量法ニ依リ度量衡器、計量器ノ販賣人ノ許可ヲ受ケ鑛業法ニ則リ鑛業ノ出願ヲ爲シ鑛業權ノ登錄ヲ受ケ來レリ

唯七月一日ヨリ之等諸法規ノ罰則ヲ日本人ニ適用シ警察取締ヲ爲シ得ルニ至レルニ過キサルナリ

商標法ニ依リ六月末日迄ニ日本人ノ商標、登錄ヲ出願セルモノ一五、八三六件ニシテ此ノ中一〇、六六八件ノ登錄ヲ見タリ、七月以降八月

迄ニハ四三八件ノ出願アリ其中四〇〇件ノ登錄ヲ見タリ
特許發明法及意匠法ハ六月十五日ノ施行ニシテ六月中ノ日本人ノ出願ハ特許一、七七六件、意匠三五六件ニシテ七月以降八月迄ニハ特許六四四件、意匠一八一件ノ出願アリ之等ハ法律施行以來日尚淺ク目下銳意審查中ニシテ未タ登錄サレタルモノナシ

度量衡器、計量器ノ製造ハ日滿合辦ノ滿洲計器股份有限公司ニ獨占セシムルモ販賣人ニ付テハ日本人ニモ之ヲ許可シ度量衡器ニ付テハ六月末日迄ニ四十四名ノ日本人ニ販賣ヲ許可セルモ七月以降ハナシ計量器ハ六月末日迄ニハ日本人ノ販賣許可ハ皆無ナルモ七月以降七名許可セリ目下度量衡器及計量器ハ法定器物ノ使用猶豫期間中ニシテ器物ノ取締ノ問題ナシ

昨年九月鑛業法施行以來鑛業出願一、七一六件アリ約二八〇件許可セリ七月以降ノモノ約五〇件ナリ日本人關係多シ從來盜掘ニ付テハ軍ニ依頼シ取締リ來レルカ七月以後直接取締リヲナシ得ルニ至レリ

中央卸賣市場ハ哈爾賓及吉林ニ開設セラレ各十二名ノ日本人仲買人トシテ許可サレ居レリ、日本人ノ類似市場ノ取締ニ付テハ日本領事館側ト協力シテ行ヒ居レリ

家畜市場ハ哈爾賓及新京ニ開設サレ居ルモ日本人ノ關係者ナシ

林場權整理法ニ付テハ從來日本人ニ對シテ適用シタルコトナシ

貿易緊急統制法ハ日本側ノ要望ニヨリ制定セルモノナルカ實施後僅ニ數日ヲ經タルノミナレハ實績ニ付テハ後日ニ讓ルコトトス

之等ノ產業法規ハ概ネ日本人ノ權利利益ヲ尊重シ產業ノ發達ヲ助長スルヲ目的トスルモノナレハ從來ヨリ日本人モ之ニ從ヒ來レルモノニシテ七月一日ヨリ正式ニ適用サルルニ至レルモ別段問題トナレルモノナシ唯哈爾賓ノ中央卸賣市場ニ關シテハ同市ニ日本領事館ノ許可取消ノ市場二、無許可市場四アリ之ハ從來ノ關係モアリ取締ヲ領事館ニ依賴セル處其勸告ニヨリ大體閉鎖スル模樣ナリ

右ノ如ク產業法規ノ日本人適用ニ付テハ憂慮サルヘキ點ナキモノト思料ス

領事裁判權撤廢準備狀況

司法部　菅原民事第一科長

領事裁判權撤廢準備狀况ハコレヲ一言ニシテ申上ケマスナラ豫定ノ方針ニ基キ且豫定ノ速度ヲ以テ着々進捗シテキルトイフニ盡キルノテアリマス

既ニ對滿事務局ヘモオ渡シイタシマシタ司法部作成ノパンフレツト司法制度整備概况ニハ滿國司法制度ニ付コレヲ(イ)司法法規ノ制定(ロ)人的要素ノ向上刷新(ハ)物的設備ノ整備改善ノ三部門ニ分チ其ノ整備刷新ノ狀況及將來ヘノ方針ヲ述ヘテオキマシタカコノ既定方針ニ基キ實行シ目下豫期ノ如キ効果ヲ擧ケツツアルノテアリマス從テ今茲ニ贅言ヲ費スコトモナイト存シマスカ簡單ニ其ノ狀況ヲ申上ケマス

第一　司法法規ノ制定ニ付テ

司法法規ノ内重要ナルモノ、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法ハ當初ノ方針テハ明年十二月末迄ニ完備スル豫定テアリマシ

タカ過般御承知ノ様ナ事情ノ為明年六月末マテニコレヲ完備スル即チ七月一日マテニハ制定公布スルコトニ方針ノ變更ヲ見タノテアリマス而シテ刑法、刑事訴訟法ハ最近草案ノ脱稿ヲ見ルニ至リマシタカ民事法規ハ刑事法規ト異リ其ノ制定ニ相當長キ日時ヲ要スルノテ明年六月末マテニコレヲ制定公布スルカ為ニハ異常ナル努力ヲ要スルノテアリマス於之司法部ハ從來民事法規ハ四名ノ專任參事官ニ於テ起草ヲ擔當セシメテキタノテスカ最近更ニ之ニ民事司ノ科長二名ヲ加ヘ全員六名ヲ以テ起草明年六月末迄ニ制定公布スル樣最善ノ努力ヲ傾倒シテキマス而シテ各法規ノ公布豫定日時ハ左ノ通リテコサイマスカ其ノ詳細ハ青木閣下ニ先刻差上ケマシタ民事法規制定豫定表ヲ御覽願ヒマス

(イ)明年一月四日ニ公布スヘキモノ

手形及小切手法、刑法、刑事訴訟法

(ロ)明年三月一日ニ公布スヘキモノ

商人通則、會社法、民事訴訟法

(ハ)明年七月一日ニ公布スヘキモノ

民法總則編、同物權編、同債權編、強制執行法、海商法、運送法
倉庫法

尚明年六月以降十二月迄ノ間ニ非訟事件法、不動産登記法、民事調解法ヲ制定シ又會社法ノ公布ト同時ニ外國法人法ヲ制定公布スル豫定テアリマス

尚コレラノ立法方針ニ就テハ豫テ御説明申シテオキマシタ如ク建國ノ主旨國情ニ即シ且日本人ノ法律生活ニモ適應スル樣考慮シテキルノテアリマスカ特ニ近代個人主義的法律思想ノ弊害ハコレヲ是正シアル場合ニハ全體主義的觀念ニ立脚シテ規定ヲ設ケ又手續法ニツキマシテハ訴訟手續ノ公正迅速ニ多大ノ留意ヲ拂ツテキルノテアリマス日本内地ニ於キマシテハ匆急ニ立法ヲ爲スヲ望マシカラストノ御意見モアリ我々モ抽象的ニハカカル御意見ニ賛同シテキルノテアリ

0000 0616
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

マスカ我々ニハ相當周到ナル準備ト慎重ナル考究ノ下ニ立法事業ニ從事シテヰルノテアリマスカラコノ點ハ御安心願ヒタイト存シマス

只今述ヘマシタ如ク明年六月末マテニハ主要ナル司法法規ノ制定公布ヲ見ル豫定テアリ、現狀ヲ以テセハコノ豫定ハ可能ナリト信シテヰマス

次ニ御承知ノ如ク本年七月一日新法院組織法ヲ施行イタシマシテ從前ノ所謂正式法院檢察廳ハ全部新法ニ依ル法院檢察廳ニ改組イタシマシタカ尚縣司法機關カ殘存シテヰルノテアリマスコノ縣司法機關ハ明年中ニ其ノ大部分ヲ新法ニ依ル法院檢察廳ニ改組スル豫定テ既ニ本年春ヨリ多數ノ人員ヲ動員シ多大ノ費用ヲ投シテ實地調査ヲ爲シ大部分ノ調査ヲ了シマシタカラ豫定ノ如ク明年中ニ改組ヲ斷行シ了ル豫定テコサイマス

第二　人的要素ノ向上刷新ニ付テ

コノ點ニ付キマシテモ前掲パンフレットニ記述シテアル豫定ノ方針

ニ基キ着々實行シテヰルノデアリマスカ二、三之ニ附加スレハ本年七月一日新法院組織法施行ニ伴フ司法官ノ正式任命ノ際ニハ人材登用適材適所ノ實ヲ擧ケ無爲無能ノ輩ハ淘汰シ大イニ清鮮ノ空氣ヲ注入シタノデアリマス又領事裁判權撤廢準備トシマシテハ廣ク日人司法官ヲ配置スル必要カアルノデアリマスカ今年度中十數名ノ日本司法官ヲ招聘スル豫定テ過般人事科長カ赴日其ノ交渉ヲ爲シマシタカラ近ク實現スル筈テアリマス尚本年六月ニハ日本ノ高等試驗司法科試驗合格者中優秀ナル者十八名ヲ學習法官トシテ訓練中テアリ又本年六月司法部法學校ヲ卒業シタ新進二十名コレハ滿人テアリマスカ學習法官トシテ訓練中テアリマスカコレラハ明年中ニハ審判官、檢察官トシテ第一線ニ立ツニ至ルヘク其ノ曉ニハ法院檢察廳ノ空氣モ一新サルルコトト信シマス以上ノ外既成法官ノ再訓練等ニツキマシテモ或ハ本部ニ於テ講習會ヲ開催シ或ハ現地ニ於テ日人法官ヲ指導者トシテ研究會ヲ開催スル等最善ノ努力ヲ拂ツテヰマスカラココ一

兩年中ニハ司法官ノ素質カ飛躍的ニ向上刷新スルコトト存シマス

第三　物的施設ノ整備改善ニ付テ

コレ亦既定ノ方針ニ基キ努力シテヰルノテアリマスカ所期ノ目的ヲ着々進捗實現シテヰマスカラ御安心願ヒマス

尙コノ機會ニ二、三附加シテイタタキ度イコトハ

(イ)過般ノ第一次條約ニ基キ課税産業ニ關スル法規ノ罰則ヲ日本人ニ適用シ得ルコトニナリ又日本人ハ滿洲國領域內ニ於テ一切ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スルコトヲ得ルニ至ツタノテアリマスカ其ノ結果司法上ニモ種々影響カアリ解決スヘキ問題モ生シタノテアリマスコレニ關シテハ先刻山本書記官ヨリモ御説明カアリマシタカ司法部ハ大使館ト隔意ナキ了解ヲ遂ケ日本人ノ權利ヲ害セサル樣ムシロコレヲ擁護スル樣萬全ノ對策ヲ講シテヰマスカラ御安心願ヒマス

(ロ)商租權ノ整理ニツキマシテハ近ク商租權整理法カ公布施行サルル

コトニナツテヰマスカコノ法律ニ於テハ大正四年ノ日支條約ニ基ク商租權ノミナラス日本人カ滿洲國領域内ニ於テ有スル一切ノ土地權利ヲモ整理シコレヲ民法上ノ權利例ヘハ土地所有權、地上權永佃權、土地賃借權等夫々其ノ内容ニ照應スル權利ニ轉換シ以テ日本人ノ權利ヲ公正妥當ニ擁護スル方針テアリマス現在ノ調査ニ依リマスト商租權ノ件數約十三萬件、コノ整理ニ約三年ヲ要スル豫定テアリマスカコノ整理事業ノ本旨ニ鑑ミ整理機關ハ第一次ニ地籍整理局長、第二次ニハ商租權整理委員會トイフコトニ規定シテヰマス尚未整理ノ商租權ハ依然商租權トシテ存續シ其ノ間讓渡其ノ他ノ處分モ可能テアリマスカコノ點ニツキマシテモ日本人ノ權利ヲ害セサル樣細心ノ注意ヲ拂ツテヰマス

以上簡單テアリマスカ準備概況其ノ他ニツキ御諒承ノコトト存シマスカ要之領事裁判權撤廢ノ準備ハ支障ナク豫定ノ通リ進捗イタシテヰルノテアリマスカラ御安心願ヒマス

交通部郵政關係準備狀況報告要旨

交通部　岡本郵務科長

一、條約關係

日滿兩國郵政廳間ノ協議ニ委サレタル附屬業務協定及之カ細目協定ハ現地機關ト最モ緊密ナル連絡及了解ニヨリ前者ハ既ニ成案ヲ得テ遞信省ニ於テ審議修正案ヲ送付シ來リタルヲ以テ目下再審議中後者ハ現地機關ト第一回ノ集會ヲ試ミ大體成案ヲ得タルヲ以テ目下夫々ノ機關ニ於テ再審査中ナリ

二、國內業務ノ整備

1.法規

郵政ノ根本法タル郵便法、貯金法、電氣通信法其他重要法律竝規則取扱規程等ノ附屬法規ハ既ニ大部分ノ成案ヲ得就中郵便法ハ一兩日中法制處ニ提出、貯金法ハ十二月一日實施ノ豫定ヲ以テ準備シツツアリ又電氣通信法ハ十月一日公布實施ノ見込ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0621

其他ノ法規ニ付テモ大部分ハ本年十二月中完成明年三月ヲ最終期トシテ公布ヲ了シ三ケ月乃至四ケ月ノ事務訓練期間ヲ置イテ六月乃至七月ニハ面目ヲ一新シタル郵政業務ノ運行ヲ見ル確信ヲ得タリ

2. 制度

現行制度ノ改善整備ヲ要スルモノハ既ニ調査ヲ完了シ改正法規ニ夫々織込ミ規定シツツアリ新タニ制定セントスル簡易保險郵便年金ニ付テモ夫々計畫ヲ進メ就中前者ニ付テハ既ニ實施要綱ヲ得タルヲ以テ明年十月ニハ實施スルモ支障ナキ程度ニ法規其他ヲ整備スル見込トス

三、從業員ノ訓練

郵政ノ現業員ハ大部分滿人ナルヲ以テ在來業務ノサービス向上、新制度ノ運行、責任感念ノ養成、思想取締等ニ付テハ特別ナル考慮ヲ要ス即既ニ滿人從業員十數名ヲ日本官吏訓練所ニ留學セシメタル外

養成機關ノ設置監察制度ノ充實等之カ目的達成ノ爲ニ目下鋭意準備中ナリ

以上極メテ順調ナル準備ノ進捗ヲ見ツツアルノミナラス數多ノ制度改善、從業員ノ訓練等ハ相俟テ治外法權撤廢乃至移讓ニ付テハ何等支障ヲ來スコトナシト確信ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

移譲調整準備事務進行状況

康德三、八、二一　各委員報告

一、通信行政權移譲竝業務委託ニ關スル條約草案　成案日本側ト協議中
二、郵局官制案　成案
三、通信行政權移譲ニ關スル細目協定案　九月中第二次修正案
四、外國郵便受託取扱ニ關スル業務協定案　成案
五、簡易保險受託取扱ニ關スル業務協定案
六、外國郵便受託事務執行規則　十月中成案
七、簡易保險郵便年金受託取扱事務執行規則　十月中成案

一、郵便貯金法　九月中旬成案
二、郵便規則
三、貯金管理所官制　成案
四、郵便貯金受託取扱ニ關スル日本トノ業務協定案　八月中成案

五、郵便年金受託取扱ニ關スル日本トノ業務協定案　八月中成案

六、滿日振替貯金ニ關スル日本トノ業務協定案　十月成案十一月調印十二月實施

七、郵便貯金取扱規程　十二月成案

八、郵便貯金受託取扱事務執行規則　根據法成案ノ後着手約一ケ月ヲ要ス

九、郵便年金受託取扱事務執行規則

一、鐵道船舶郵便法　成案

二、鐵道船舶郵便規則　成案

三、郵便講習所規則　康四二月中成案

四、郵便所規則

五、郵便取扱所規則

六、郵便所手當支給規則

（四、五、六）康四二月中迄再檢討

一、萬國郵便條約及同條約ニ關聯スル諸規程類ノ研究　（規則、取扱規程ト併セ

二、日支郵便約定、滿華郵便協定類ノ研究　）考究（別項參照）

一、軍事郵便制度ニ關スル研究	成案目下軍ト折衝中
二、郵便線路規程	八月末公布
三、郵便集配規程	十月中旬成案
四、郵便物區分規程	十月中成案
一、電氣通信法	十月一日公布ノ豫定
二、電氣通信規則	一月一日公布ノ豫定
三、專用通信施設公衆電報取扱規則	成案審議中一月一日公布ノ豫定
四、電氣通信事業特許規則	成案審議中一月一日公布ノ豫定
一、郵便爲替法	成案
二、通常爲替方式ノ改正其ノ他	成案

三、郵便爲替規則	成案
四、郵便爲替取扱規程	九月中成案
五、外國郵便爲替規則	十月中成案
六、外國郵便爲替取扱規程	十月中成案
七、滿日爲替規則	十月中成案
八、滿日爲替取扱規程	十月中成案
一、郵政事業特別會計法	成案審議中
二、郵政事業特別會計規則	成案審議中
三、郵政事業特別會計事務規程	成案公布準備了
四、郵局現金收支規則	至急貯匯ト合議ヲ要ス
五、事業用物品規程	成案公布準備了
六、被服規程	成案
七、事業用物品調與ニ關スル調査竝措置	一應了

一、郵政管理局、通信官署雇員規程	成案
二、郵政管理局、通信官署傭人規程	成案
三、郵政公報規程	成案
四、管理局報規程	成案
一、郵政管理局長職務章程	九月一日公布ノ豫定
二、郵局長職務章程	成案
三、遞送集配受負規程	八月中成案
一、外國郵便規則	十二月中成案
二、外國郵便取扱規程	十二月中成案
三、滿日郵便規則	十月中成案
四、滿日郵便取扱規程	十月中成案

一、郵便法	法制處ヘ提出中
二、郵便規則	成案
三、郵便取扱規程	八月中成案
四、郵便切手類記號ニ關スル規程	未着手一週間ヲ要ス
五、犯罪事件處理手續	未着手一ケ月ヲ要ス
一、振替貯金規則	九月中成案
二、振替貯金取扱規程	十月末成案
三、滿日振替貯金規則	十月末成案
四、滿日振替貯金取扱規程	十月末成案

備考

振替貯金關係ハ十二月一日實施ヲ目標ニ其他ハ緩急ニ應シ主要法規ハ審議終了次第公布ノ手續ヲトリ明年三月一日ヲ最終期トシテ全部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0629

公布ヲ了リ約三ケ月ノ事務訓練期間ヲ置キ七月一日ヲ最終期トシテ
總テノ法規ヲ實施スル目標ノモノニ準備スルモノトス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0000 0631

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

昭和八年一月三十日

東亞煙草株式會社社長　金光庸夫

專賣局長官佐々木謙一郎殿

英米トラスト滿鐵附屬地進出計畫ノ件

英米煙草トラストハ滿洲事變以來政情ノ變化等ニ伴ヒ滿洲内ニ於ケル事業經營上自然動搖ヲ免レサルモノヽ如ク種々策動ヲ開始シ最近滿鐵附屬地ヘ工場新設ヲ計畫致居レル事實有之右ハ弊社存立上ニモ重大ナル影響ヲ及ホス次第ニ有之種々對策ニ腐心罷在候本件ハ社業上重要ノ事項ニ有之候間經過ノ概要左記及御報告候間御高覽ノ上宜敷御高配ノ程奉懇願候

敬具

東亞煙草株式會社

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp